



つながろう

CO・OP アクション情報

2012年10月31日

第 22 号

本場のお好み焼きと、元気をお届け

生協ひろしまの「広島お好み焼き隊」が被災3県を訪問



コープふくしまの理事たちも、「広島お好み焼き隊」から焼き方のコツを教わり挑戦。生地の粉やソースはお多福グループ(株)からの提供。

10月7～17日、生協ひろしまは、福島県、宮城県、岩手県に「広島お好み焼き隊」を派遣。事前にプロの講習を受けた、組合員・役職員計6人構成の3グループが各地を訪問し、熱々のお好み焼きを被災された方々に振る舞いました。



生協ひろしまの30事業所が1枚ずつ作った「寄せ書きのれん」が、秋風になびく。

目の前で焼かれるお好み焼きに、福島県の仮設住宅に住んでいる佐藤美喜子さんからは、「仮設住宅は狭くて匂いがこもるから、焼き物や揚げ物はあ

まりできないんです。住民全員が同じものを食べるという機会も貴重です」との感謝の声です。

生協ひろしまでは、これまで、募金や物資・メッセージのお届けに取り組んできました。8月5日に行なわれた「ピースナイター2012」には、いわて生協、みやぎ生協、コープふくしまを通じて、被災された方24人を招待しました。

福島県での「お好み焼き隊」に参加した、生協ひろしま大野支所支所長の永井浩治さんは、「私たちは、避難生活に苦しんでいる方の声に、どう応えて

いけるかを考えるために福島に来たのだ」と考えます。「被災地の実態を広島に戻ってたくさんの人たちに伝えたいです」と力を込めて語ってくれました。

事務局である、総合企画室の福島守さんは、「震災直後の3月17日に被災地に支援に入ったとき、『落ち着いたら、広島のお好み焼きを食べてもらいたい』とみんなで話していました。今回の企画にあたり、一度もお会いしたことがない現地の生協の方も最大限協力してくれてうれしかったです」と思いが実現した喜びを語っていました。